

令和6年度
外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題
理解増進事業

安中総合学園高等学校における 「がん教育」の取り組み

群馬県立安中総合学園高等学校
保健体育科 高屋 剛士

1

はじめに

「がん教育は、健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がん患者や家族などのがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育である。*」このことを踏まえ、「がん」に関わる基本的な知識を習得した上でがん患者との共生を意識し、生徒自身の家族や大切な人ががん患者となったときにどのように寄り添っていくかを考えるきっかけにしたい。また、何気なく過ごしている当たり前の日常がいかに貴重であるかを自覚させ、より一層の健康の保持増進と生活の質を高めることに繋がることを期待したい。

【※「がん教育」の在り方に関する検討会より 文部科学省】

2

1. 指導計画

- ・ 第1時 「がんの原因と予防」
- ・ 第2時 「がんの治療と回復」
- ・ 第3時 講演「がん教育プログラム～がん患者の支援を中心に～」
(外部講師の活用)
講師：田中 俊行先生（高崎総合医療センター医師）
対象：第1学年
- ・ 第4時 「がん患者の想いに寄り添う」
(公開授業)

※文部科学省スライド教材を積極的に活用

3

2. 講演会について

【ねらい】

- ①がんという病気を正しく理解することができるようにしよう。
- ②がんについて学ぶことや、患者を支援することを通じて、健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにしよう。

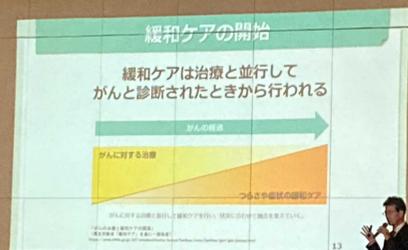
上記の2つを講演会のねらいとし、高崎総合医療センター医師の田中俊行先生に『がん教育プログラム～がん患者の支援を中心に～』というタイトルでご講演いただいた。講演会では、文部科学省スライド教材の活用を御願いした（同じ教材を公開授業でも活用）。

※文部科学省スライド教材を積極的に活用

4

講師：田中俊行先生
(高崎総合医療センター医師)

※現在は、緩和ケアを中心に活動されています。



5

3. 講演会『がん教育プログラム』

〈がん患者の思い〉

- ・ 患者の意思が最優先
 - ・ 希望する生き方を尊重する
 - ・ 価値観の違い
- ➡答えは患者自身の中にある

〈がん患者との接し方〉

- ・ 家族は第2の患者
- ・ 家族は患者以上に辛い側面がある
- ・ 患者の好きなこと、興味のあることに寄り添うことが大切
- ・ 患者はこれまで通りの接し方を望んでいる
- ・ 患者と一緒に治療法を探していくことが大切

がん発症➡緩和ケアの開始【重要】

6

4. 公開授業

・ 日時 令和6年11月11日(月)
第5校時(13:35~14:25)

・ 対象クラス 第1学年1組38名

・ 場所 1年1組教室

・ 単元名 現代社会と健康

「がんの原因と予防・がんの治療と回復」

・ 本時の目標 ○がん患者との共生を意識し、患者が「何を望むのか」、
「何を求めているのか」について思考することができる。



7

5. 授業の流れ

【授業前の配慮として】※養護教諭と連携

授業中に辛くなったり、気分が悪くなったりした場合は退席して良いことを伝える。

①前回(講演会)の振り返り(要所で講演会と同じスライド教材を活用しての振り返り)

②本時のねらいについて確認(がん患者の想いに寄り添う)

③グループワーク〈事例1、事例2〉

「父親が優先させたいものは何か」を考える。〈事例1〉

「女性が望んでいること、女性の積極性を拒んでいる要因」を考える。〈事例2〉

・ 個人で考えた後に、各班でGoogleスライドに意見を書き込む。

・ 各班の意見を共有することで、多様な価値観があることを知る。

【文部科学省がん教育推進のためのスライド教材を活用】

8

④個人ワーク

テーマ：自分の大切な家族が『がん』になったとします。患者が前向きに治療を行うために、自分ができる支援（寄り添い方）を考えてみよう。

- ・各自がワークシートに取り組む。
- ・他者の意見を参考にしながら、がん患者との共生について具体的な方策を思考する。

⑤本時のまとめ

- ・がん患者への想いに寄り添う。
- ・がん患者への寄り添い方。
2つの視点に沿って、まとめを行うことで、本時の目標に迫りたいと考えた。



がん教育プログラム

1. がんという病気
2. 日本のがんの現状
3. がんの発生と進行
4. がんの予防
5. 検診の意味
6. がんの治療で大切なこと
7. がん治療の支援
8. がん患者の思い
9. がん患者と共に生きる社会

文部科学省 がん教育推進のための教材

9

10

※ 2人組で振り返ってみよう（3分間）

- ①日本では何人に1人ががんになっているのだろう
- ②日本では年間に何万人がんになっているのだろう
（何人に1人が亡くなっているか）
- ③がん患者の方に起こっていること（2つの側面の辛さ）
- ④がん治療中に支援が必要な人は？（患者+〇〇）

がんによる死亡数



3人に1人ががんで亡くなっている

2人に1人ががんになる

11

12

Q がんの患者の方には、どんなことが起きるのだろう

体の痛み・つらさ

- 吐き気でつらい。
- 体が痛くてつらい。など

心のつらさ

- 将来のことが不安で眠れない。
- 治療の費用が心配だ。など



2

13

Q がんの治療中に支援が必要な人は誰だろう

体の痛み・つらさ

心のつらさ



がん患者だけでなく支える**家族**にも支援が必要。

3

14

それぞれの分野の専門家がチームで患者とその家族を支援

治療法の選択を助ける

看護師

医師

薬剤師

痛みを取り除く

患者・その家族

ソーシャルワーカー

カウンセラー

経済面の支援

日常生活を支援

緩和ケア

9

15

本時のテーマ

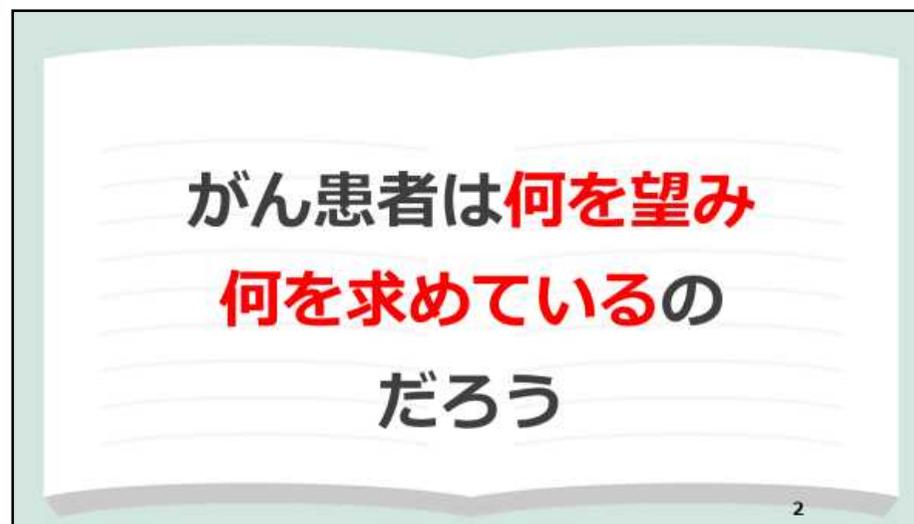
「がん患者の想いに寄り添う」

～がん患者の共感的理解&共生～

16



17



18

Q 父親は何を優先させたいと考えているのだろう？

事例 1

- ・ 進行したがんとわかり、抗がん剤治療を続けている。
- ・ 仕事を続けるため、通院しながらできる治療方法を選んだ。
- ・ 子供に病気のことをどう話すか悩んでいる。

父親の立場になって考えよう！

公開授業
グループワーク資料

19

事例 1 「父親が優先させたいものは何か？」

- ①
- ②
- ③

生徒の意見
 父親は家族を優先させたい。
 子どもの理解がおいつかない。
 こどもの負担 等

20



患者はどのような生活を望むのか。また、患者の**積極性を拒んでいる要因**は何でしょうか？

患者視点になろう

事例2

- 乳がんで胸に大きな傷が残り、自信を失って閉じこもりがちになっていた。
- 患者の会に入って同じ乳がんの仲間と出会い、貸切で温泉に入ることができるようになった。好きだった旅行を楽しむことができるようになった。



公開授業
グループワーク資料

21

事例2「女性が望んでいること、女性の積極性を拒んでいる要因」

【望んでいること】

・

【拒んでいること】

・

【望んでいること】

- これまでと変わらず生活したい。
- 悩みを共有できる仲間が欲しい。

【拒んでいること】

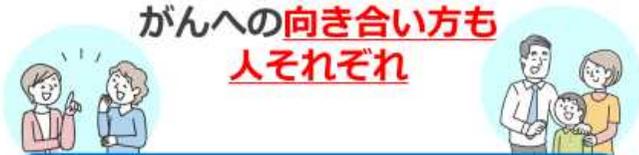
- デリケートな部分の傷が残ってしまったため。
- 大きな病気をしてしまったことによる他人からの偏見。



22

がん患者の「生活の質」

一人一人の**生き方が異なるように、**
がんへの向き合い方も人それぞれ



自分らしく生きられるよう
生活の質 (クオリティ・オブ・ライフ)
の維持・向上が大切

5

23

自分の大切な家族が「がん」になったと仮定します。

- ・ 患者が前向きに治療を行なうために、自分ができる支援（寄り添い方）を考えてみよう（個人ワーク）

※正解はありません。患者の想いに寄り添うことを大切にしよう！

2

24

まとめ（がん患者の想いに寄り添う）

○がんへの向き合い方は人それぞれ（がん患者の価値観を最優先）

○がん患者に加えて、がん患者を支える家族は「第2の患者」。患者以上に辛いと言われる（緩和ケアの必要性）

○「答えは患者自身の中にある」ため、患者と一緒に考えていくスタンスを持つことが大切。（自分らしく生きる⇨生活の質の向上＝治療に向かう気力の維持）

29

まとめ（がん患者の寄り添い方）

①がん患者の価値観を最優先する

②緩和ケアの必要性（患者本人＋支える周囲の人物）

③生活の質の向上（自分らしく生きる）

30

がんについて
周囲の理解が
ある。

がんの治療に
周囲の協力が
得られる。

がんへの正しい理解が
誰もが暮らしやすい社会につながる

1
1

31

最後に

- がんに関する正しい知識を身に付けるのに、外部講師の講演会が効果的であった。
- 講演会と授業との関連性をもたせるために、両方で「文部科学省スライド教材」を活用したことが、基本的な知識の定着につながった。
- 講師との連携（打合せ、スライド教材の活用等）により、がん教育のねらいや方向性が明確になった。その成果もあり、授業では、生徒はがんに向き合い、よく考えている姿が見られた。
- 「文部科学省スライド教材」をもとに講演会・授業を組み立てたが、分かりやすく、使いやすいものであった。

32

ご清聴有難うございました